

フォローアップミーティング ウズベキスタン訪問

平成 24 年 10 月 14 日から 18 日の間、JCCP 佐瀬専務理事は、産油国との交流を深め相互の理解と協力を増進するため、ウズベキスタンを訪問し、国営石油会社のトップマネジメントとの政策対話を行いました。

1. ウズベキスタン国営石油ガス持株会社 (UZBEKNEFTEGAZ)

UZBEKNEFTEGAZ はウズベキスタンの石油・ガス関連の事業を統括する国営の持株会社で、傘下に 6 つの事業会社を有しています。JCCP が初めて同国より研修生を受け入れたのは 1998 年でした。2004 年から本格的に受け入れを開始し、これまでに約 80 名の研修生が JCCP の研修に参加しています。

今回、タシケントにある同社の本社を訪問しショキール総裁 (Mr. Shokir N. Fayzullaev, Chairman of the Board) に面会することが出来ました。



UZBEKNEFTEGAZ ショキール総裁 (中央)

まず総裁より、今回の佐瀬専務理事の訪問を歓迎するとともに、これまでの JCCP の研修について以下の通りお言葉を頂きました。

「UZBEKNEFTEGAZ と JCCP とは長い関係があり、その研修には大変感謝している。研修生は JCCP で学んだことを生かして職務についている。1998 年以降、多くの研修生が JCCP の研修に参加しており、今年も既に 10 人が JCCP 研修に参加している。さらに将来の研修向けに現在、既に 26 人の候補者を選抜している。」

続いて佐瀬専務理事より、これまで良好な関係を維持できたことに関する感謝の言葉が述べられました。さらに、JCCP の設立 30 周年を契機に各国を訪問しさらなる協力をお願いしていること、今後はウズベキスタン独自の要望に沿った研修をカスタマイズド研修の形で実施していくこと、東日本大震災と

原発事故当時の状況や現在は影響なく順調に研修を行っていることなどを説明しました。

これに対し、総裁から被災者へのお見舞いの言葉が述べられ、日本人が災害にあっても発展を続けられる国民であると認識していることや、甚大な被害があったにもかかわらず研修活動を順調に維持していることへの賞賛、さらにはウズベキスタンには天然ガスが豊富であることを背景に天然ガスを活用した石化分野への研修の要望や、好天の多いことを背景とした太陽発電技術などへの要望にも言及され、諸点につき意見交換が行われました。

最後に佐瀬専務理事より、JCCP は今後とも出来るだけ UZBEKNEFTEGAZ の要望に沿った研修を行うために情報交換を続けていくことを再度確認して会談は終了しました。

2. ウズベキスタン石油精製事業会社 (UZNEFTMAHSULOT)

UZNEFTMAHSULOT は UZBEKNEFTEGAZ 傘下の下流事業会社であり、2 つの製油所 (フェルガナ製油所、ブハラ製油所)、23 の石油基地などを持っています。UZBEKNEFTEGAZ 傘下の事業会社の中では最も JCCP 研修との関係が深い企業です。今回、ハミドビッチ副社長 (Mr. Radjabov Sharif Hamidovich, Deputy of Chairman) とお会いすることが出来ました。

会談では、まず佐瀬専務理事より、継続的に研修生を送って頂いていることに対する御礼と、設立 30 年を一つの区切りとして各国を訪問し、意見交換やニーズ聴取を行っている旨の説明がなされました。

ハミドビッチ副社長からは、効果的な研修を社員に行ってきた JCCP に対する感謝や、これまでに同社から派遣された研修生が研修の成果を持ち帰り社内でそれを有効に活用していること、2013 年の研修候補者を英語の堪能な職員の中から選考中であることなどが述べられました。



UZNEFTMAHSULOT ハミドビッチ副社長 (中央)

これに対し、JCCP よりロシア語の通訳が手配できるカスタマイズド研修（CPJ）であれば語学の問題等は解決するという説明を行ったところ、すぐに具体的に案件をまとめたいとの積極的なお答えを副社長より頂きました。

3. ガブキンズ・ロシア国立石油ガス大学 タシケント分校

ロシアの国立石油・ガス大学の分校ですが、ウズベキスタンではUZBEKNEFTEGAZ 関連の教育機関と位置付けられています。同社の手配で今回訪問することが出来るようになり、サイダメドフ学長（Dr. Saidahmedov I.M., Executive Director）と面談しました。

学長によれば、本校は2007年にカリモフ大統領の命令により設立された石油・ガス分野の専門大学（探査・掘削などの上流中心）で在校生数は約600名、今年は約100名が卒業する予定であり、卒業生はUZBEKNEFTEGAZ 傘下の事業会社を始め、ガスプロム、ロスネフチ、ルクオイルなどのロシア企業やベトロナス等にも職を得ており、就職後の社員教育も行っているとのことでした。



ガブキンズ・ロシア国立石油ガス大学タシケント分校
サイダメドフ学長（前列中央）

JCCP 側から事業概要やサウジアラビアのキングファハド石油鉱物資源大学をはじめとする大学との協力事例を説明したところ、タシケント分校で開催されている実務セミナーへのJCCP からの講師の派遣等、協力の可能性についての案が出されたため継続して検討することで合意しました。さらに、JCCP はルクオイルをはじめとするロシアの石油会社からも継続的に研修生を受け入れている旨の説明に対し、学長はロシア本校とJCCP の協力の可能性についても言及されるなど、積極的な姿勢が感じられる会談となりました。



ガブキンズ・ロシア国立石油ガス大学タシケント分校での
掘削関連の授業風景

4. まとめ

ウズベキスタン国営石油ガス会社の幹部とJCCP 幹部との会談は初めてのことでしたが、UZBEKNEFTEGAZ 総裁以下、JCCP の事業内容とこれまでの関係をよく理解されており、カスタマイズド研修やレギュラーコースにガス・石油化学分野の研修を加えるなど積極的に新しい協力の案を提示して頂くことが出来ました。帰国後、実務レベルでの相互の検討の結果、2013年3月に計装分野でのカスタマイズド研修（CPJ）を実施する旨で合意に至り、訪問の成果が具体化されました。今後も今回の情報交換に基づき協力課題を検討していきたいと考えています。

（業務部 山中 明夫）